

シチズングループ CSR報告書2011



シチズンホールディングス株式会社

●お問い合わせ先
シチズンホールディングス株式会社 監査・CSR室
〒188-8511
東京都西東京市田無町6-1-12
TEL 042-468-4776
FAX 042-466-1280
WEBサイト <http://www.citizen.co.jp/>

2011年6月発行



この報告書は、適切に管理された森林からの木材を使用していることを示す、FSC®認証紙を使用しています。
また、印刷には、現像液を使うフィルムが不要で環境負荷低減につながるCTP印刷と有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。
さらに、生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易なベジタブルオイルインキを使用しています。



このレポートを作成した際にかかわったCO₂ 4,686kgは、一般社団法人日本カーボンオフセットを通じてオフセットされ地球温暖化防止に貢献します。

【特集】

グローバルに広がる
シチズングループのCSR

【トップメッセージ】

柔軟な姿勢で変化に対応し、
着実な成長を続ける
企業グループであるために



グループとして“全員参加型CSR”をめざします。

—あなたにとって「CSR」とは？—



編集方針

CSRの基盤	
コーポレートガバナンス	14
シチズングループのCSRおよびリスクマネジメント	15
社会とシチズン	
お客様とシチズン	18
株主・お取引先とシチズン	20
従業員とシチズン	21
地域社会とシチズン	24

シチズングループの環境経営	26
エコ・ドライブ ウォッチ ― デザインの可能性	30
第三者意見	31

グローバルに広がるシチズングループのCSR活動のこれまでと、現在世界各地で展開しているさまざまな取り組みを紹介します。

シチズングループは、2005年4月に「国連グローバル・コンパクト」への参加を表明し、グループを挙げてその10原則の支持・尊重・実行をめざしています。具体的な指針として、グローバル・コンパクトの精神を踏まえた「シチズングループ企業行動憲章実行の手引き」をまとめ、グローバル・コンパクトの精神の徹底に努めています。

西東京市にある東京大学田無試験地で開催された「森のアート海のゲイジユツ」～昆虫たちの小宇宙へようこそ～への協力支援を行いました。東京事業所勤務の従業員の子供たちも参加し、身近な生き物を従って生物多様性について考えるきっかけとなりました。

責任に関する考え方や取り組みをステークホルダーの皆様にもわかりやすくお伝えするものです。まず世界各地の従業員が「あなたにとってCSRとは？」のボードを手にして登場し、CSRを担う従業員の顔が見える「全員参加型CSR」の取り組みが実感できるように表現しました。

特集ではシチズングループの事業活動にまつわるこれまでのCSRのあゆみをまとめ、さらに現在グローバルに拡がるCSR活動を取り上げました。

シチズングループのCSR活動を広く社会に報告するための本報告書は、グループの従業員一人ひとりがCSR活動を理解し実践していくための従業員に向けたメッセージとしても活用しています。

また、シチズングループの活動をよりわかりやすくお伝えするため、昨年度より冊子版はダイジェスト版として位置づけ、WEBサイトにすべての項目を網羅的に掲載しています。シチズングループのCSR活動の詳細は右記のWEBサイトをご覧ください。

2010年度に秋山様からご指摘のありました「グローバル企業として、リスクマネジメントの観点からも、海外での迅速な取り組みの展開を」に対しては、グローバルに広がるCSR活動を集集とし、またCSR活動の取り組み状況では海外事例をいくつか掲載し、さらにリスクマネジメントの取り組みをより詳しく記載しました。また「従業員が力を発揮できる環境をつくるための制度の紹介だけでなく、どのように利用され、従業員の誇りややりがいに結びついているか、従業員の声を多く掲載するなどの取り組み成果の検証が欲しい」というご指摘については、従業員のページ数を増やして取り組み事例をトピックスとして掲載しました。

免責事項
本報告書には、将来予測も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、実際の活動結果が予測と異なる可能性があります。

柔軟な姿勢で変化に対応し、 着実な成長を続ける 企業グループであるために



シチズングループ企業理念

For the citizen

「市民に愛され市民に貢献する」

| グループVISION |

**小型精密技術とたしかな品質を起点として、
新たな価値を創造し、
着実な成長を続ける企業グループ**

シチズングループ 中期経営計画テーマ(2010-2012年度)
「さらなる体質強化 新たな成長への挑戦」

東日本大震災で被災された皆様には一日も
早い復興を祈念いたします。

東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念いたします。シチズングループにつきましては従業員の人的被害はありませんでした。生産・販売拠点の一部では大きな被災を受けましたが、全員の頑張りと協力により、ほぼ4月中に操業を再開いたしました。

シチズングループの2010年度の業績については、計画を上回る順調なペースで推移していました。その後、期末にかけて震災による損失が発生し、決算に大きな影響を受けましたが、売上、営業利益で通期の業績予想を上回ることができました。しかしながら、2011年度においては、調達環境の悪化、エネルギー供給不足、市場マインドの低下など、今後の環境変化による影響は予断を許さない状況です。

環境変化に対応できるスリムで柔軟な体質へ

2008年の世界同時不況をようやく乗り越えたばかりのときに、再びこのような災害に見舞われてしまいました。今後も企業が置かれた環境は従来にもまして厳しく、また変化に富んだものになっていくと思われます。これら一連の変化を通して我々は、やるべき課題がたくさんあることに気づかされます。そしてどのような環境変化にも対応していくために、強い体質をもった会社になければなりません。従って、中期経営施策である「体質強化」と「成長戦略の模索」については変更はなく、むしろ加速・強化して実施していく必要があると認識しています。

着実な成長を続ける企業グループをめざして

シチズングループは、長期的な視点に立って本質的な企業力を高め、継続的に成長することによってステークホルダーに報いていくことをめざしています。その原動力は、従業員全員の向上心や充実感です。誇りや生きがいをもって一人ひとりが「真の豊かさ」を実感できるシチズングループ

になるために、新たな価値を創造し、着実な成長を続ける企業グループを実現していきます。

「シチズングループCSR報告書2011」がここに完成いたしました。今後ともグループを挙げてCSR活動の推進に向けて、取り組んでまいりますので、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2011年6月

シチズンホールディングス株式会社
代表取締役社長

金森 充行

東日本大震災への支援について

一刻も早く正常な生活に復帰されることを願って、シチズングループとして義援金1億円を日本赤十字社本社を通じて寄付いたしました。また、電子体温計3,000本を福島県赤病院へ寄贈いたしました。



世界をリードする小型化・精密技術で人々の期待や憧れを実現する確かな価値を提案し続けます

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、時計事業で培ってきた超小型技術・超精密技術・低消費電力技術などを活かした多彩な事業をグローバルに展開しています。

“技術と美の融合”をコンセプトに多彩な商品を創造する

時計事業、小型化・精密化・低消費電力化に不可欠な部品を提供するデバイス事業、便利で快適な暮らしをサポートする電子機器製品事業、ミクロンの精度で部品を高速加工する産業用機械事業——これらすべての事業と製品にシチズンの「Micro HumanTech」が息づいています。



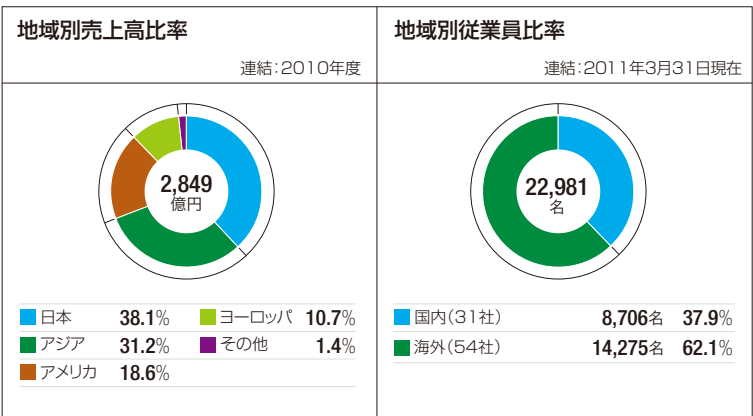
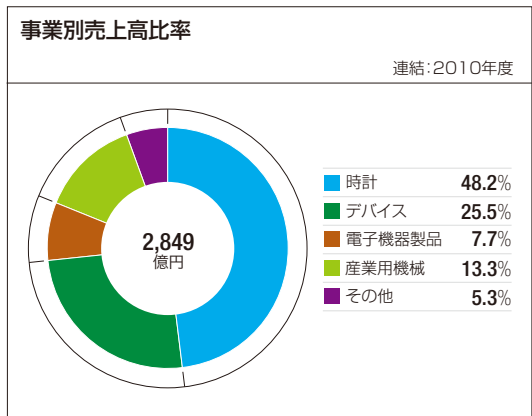
エコ・ドライブ電波時計

時計事業

“技術と美の融合”、それは最新のテクノロジーと、繊細な美しさが溶け合うことで生まれる新しい価値。この言葉なくしてシチズンの時計は生まれません。世界中の人々に愛される時計をつくりたい。私たちのこの思いは、新しい「美しさ」と最先端の「技術」を追求し続けることに込められています。もつ人を魅了する新しい価値を提供していくため、これからも時計事業は進化をし続けます。

会社概要

社名	シチズンホールディングス株式会社	資本金	326億4,889万円(2011年3月31日現在)
設立	1930年5月28日	従業員数	22,981名(連結：2011年3月31日現在)
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12	売上高	2,849億円(連結：2010年度)
代表者	代表取締役社長 金森 充行	上場	東京証券取引所第一部



LED照明

デバイス事業

機器の小型化・高性能化によって、低消費電力と高い信頼性を兼ね備えた精密技術が求められています。シチズンのDNAを受け継ぐ小型・超精密加工技術・低消費電力技術等をベースとして、社会を支えるさまざまな事業や機器に、LED・水晶振動子・自動車用部品など、デバイスを提供しています。



水晶振動子



自動車用部品



ラインサーマルラベルプリンター

電子機器製品事業

ウオッチ技術の蓄積から生まれた小型・精密・低消費電力のテクノロジーは、さまざまなビジネスの現場で使われる業務用プリンターや電子機器に活かされています。電子体温計や電子血圧計などの健康機器は、あらゆる人にやさしく使いやすいユニバーサルデザインの思想をいち早く取り入れ、これからも人にやさしく便利で快適な暮らしをサポートしていきます。



手首式電子血圧計



サーマルプリンター



NC自動旋盤

産業用機械事業

時計生産のための設備機械を自社で開発してきたノウハウや技術を活用し、「削る」ために必要な産業用機械を開発し提供しています。これからも製品ラインアップの一層の充実とお客様へのサービス対応のさらなる強化とともに、新たな顧客価値を創造する事業モデルの構築をめざし、製品単独にとどまらないトータルソリューションの提供をしています。



NC自動旋盤



ブライダルジュエリー

その他の事業

ブライダルジュエリー Something Blue(サムシングブルー)をはじめとした宝飾品の企画・製造・販売を行っています。また、ボウリング場などのレジャーサービス、アミューズメント、外食産業の自動化・省力化システム機器の製造販売を行っています。



ボウリング場

シチズンの製品・技術はこんなところに使われています

シチズンは多岐にわたる事業で社会とつながっています。
暮らしのなかの見えないところでもシチズンの製品・サービスが活躍しています。

25 出版
美術・歴史を中心に専門書を出版。東京国立博物館などで書籍コーナーを運営。

24 セラミックス部品(光通信)
光ファイバーケーブルのコネクタ接続部に使用。

23 高信頼性液晶(ガスメーターなど)
高温、高湿下での使用に耐えられる仕様。

22 電子辞書
国語・カタカナ語、英和・和英辞書をはじめ医学・健康情報も収録。

21 体温計
約30秒の高速測定。やわらかい先端部がわきにやさしくフィット。

血圧計
見やすい表示と簡単操作で健康管理をサポート。

20 レジャー施設
アイススケート場からカルチャースクールまで複合エンターテインメント空間を提供。

19 波長板(光ディスク装置)
ブルーレイの光ピックアップに採用された光学部材。

サブマウント(光ディスク装置)
放熱性の高いセラミックス基板。光ディスクで用いるレーザー、ダイオードを搭載。

1 腕時計
光発電エコ・ドライブは1996年に時計としてはじめて「エコマーク商品」に認定。

2 水晶振動子(家電製品類)
電子機器を正常に動作させるための基準信号。

3 LED(照明)
低消費電力で長寿命。水銀レスで環境にやさしい光源。

4 LCOS※(デジタルカメラ)
ビューファインダーに使用。光学式に比べ、コンパクト・薄型化を実現。

PN液晶(デジタルカメラ)
ビューファインダーのなかで使われているフォーカスエリアを表示する液晶。

小型スイッチ(デジタルカメラ)
シャッタースイッチなどに使用。

5 マリッジリング
キズつきにくい変形しにくい指輪。

6 マラソン計時装置
磁気反転方式で見やすい表示。マラソン中継には欠かせない時計。

7 自動車部品
ABS・エアバッグ・エンジンなどに用いる部品を製造。

LEDバックライト・ユニット(カーナビ)
カーナビの薄型化、省エネに貢献。

8 ビューファインダー(業務用ビデオカメラ)
スポーツの速い動きにも対応できる高解像度のビューファインダー。

9 設備時計
建物の外観と一体になり地域のシンボルとして愛されている時計。

10 LCOS※(プロジェクター)
映像エンジンに使用。高精細・高画質を実現。

※Liquid Crystal on Siliconの略。
シリコン基板を使用した液晶表示パネル。

11 燃焼圧センサー(船舶)
エンジンシリンダー内に搭載し燃焼圧力を測定。

12 セルフオーダーシステム
飲食店の座席からタッチパネルを操作しメニューを注文。

13 POSサーマルプリンター
レシートやクーポン・チケット券の発行に使用。

14 フォトプリンター
スーパーや写真屋で手軽に写真印刷。

18 水晶振動子(携帯電話)
待ち受け時の動作のタイミングをとる規則正しい信号を発振。

LED(携帯電話)
携帯電話のキー照明や、フラッシュ、バックライトに使用。

電子ペーパー(携帯電話)
電子ペーパーのメモリー性、フレキシブル性を利用した世界初の電子ペーパーキーパッド。

17 ガラス基板(ハードディスク装置)
精密切削・研磨・洗浄で最先端のハードディスク用にガラス加工。パソコン、携帯音楽プレーヤー、カーナビに使用。

16 歩数計
歩行もジョギングも手軽にデータ計測。健康の維持・増進を応援。

15 NC自動旋盤
金属の材料を削って高精度部品をつくり出す機械。

計測機器
小さな部品を正確に計測。
コアレスモーター
ギヤヘッド、エンコーダー
電子顕微鏡、放射線治療器、ロボットなどに使用。

I.

グローバルに広がる シチズングループのCSR

China 健康環境ウォーキング



CITIZEN WATCH CHINAでは、「健康のために歩く、環境のために歩く」と題したウォーキング活動を2007年より毎年1回中国各地で実施しています。毎回、植林活動や環境問題の勉強会を開き、2010年度は吉林省長白山にて一般の方を含む約20名が参加しました。

China 中国フェニックス活動



CITIZEN PRECISION GUANGZHOUでは、体制・生産革新の一環として自主活動7S活動が行われています。(7S=5S+作法、スピード)

Germany Gold Kraemer基金へ寄付



CITIZEN WATCH EUROPEでは、2010年11月身体に障がいがある子供をサポートする目的で設立されたドイツの財団 Gold Kraemer基金へ、また、クリスマスカード購入を通じてunicefに寄付しました。

Thailand インターンシップ 受け入れ



ROYAL TIME CITIでは、タイ アユタヤ地区の大学、職業学校の新卒者を採用するため、インターンシップを2週間～4か月間受け入れを行いました。

Asia

Taiwan 台北マラソン大会への協賛



CITIZEN WATCHES (H.K.) TAIWAN BRANCHでは、台北マラソン大会の公式計時協賛を行っています。

India 植樹活動



CITIZEN WATCHES INDIAでは、世界環境デーにあたる2010年6月5日に、インド全土で販売された「Eco-Drive」の腕時計と同数の苗木をバンガロールにあるK.R.Puramに植樹しました。

North America

America 「JEWELERS FOR CHILDREN」 への寄附



CITIZEN WATCH CO. OF AMERICAでは、重い病気や虐待により苦しんでいる子供たちを支援している「JEWELERS FOR CHILDREN」へ長年にわたり寄付を行っています。

South America

Brazil 小児がんの子供のための施設 Luz de Vidaへの寄附



CITIZEN WATCH DO BRASILでは、民間支援団体「LUZ DE VIDA」などへ毎年時計の寄付を行っています。それらはバザーで販売され、収益金は、ストリートチルドレンの食料や衣料品支給、小児がん治療費基金となっています。

国連ミレニアム開発目標達成に向けた活動

シチズングループは、国連グローバル・コンパクト参加企業としてミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)の達成に向けて日本国内で行われるさまざまなイベントに参加しています。

ミレニアム開発目標 (MDGs)とは

2000年9月の国連ミレニアムサミットとそれ以前のサミットなどで採択された国際開発目標を統合した、国際社会が2015年までに達成すべき8つの目標。



資料提供: 国連広報センター



貧困撲滅を求める声を「立ち上がる」という行動によって示す世界同時キャンペーンに東京事業所では、役員をはじめ200名の従業員が昼休みに集結し「立ち上がり」ました。

● STAND UP TAKE ACTION

● フィリピンの恵まれない子供たちに 歯ブラシを送ろう!



フィリピンの貧しい村で無償で治療を行っている「フィリピン医療を支える会」へ、グループ34社の従業員が参加し、3,075本の歯ブラシを集め寄贈しました。



子供たちの飢餓をなくすためのチャリティーウォーク「ウォーク・ザ・ワールド〜地球のハラペコを救え。〜」(主催: WFP 国連世界食糧計画、国連WFP協会)が2010年6月6日に開催され、シチズンボランティアクラブの28名が参加しました。

● 「ウォーク・ザ・ワールド 〜地球のハラペコを救え。〜」

● 国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所 「お母さんの命を守るキャンペーン」



「お母さん、ありがとう。」〜母の日メッセージコンテストへに協賛し、商品提供を行いました。

これらの活動により、グローバルな課題に目を向け各自が社会に貢献できることを考える機会となりました。

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

シチズングループは「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に、地域社会はもとより、地球環境と調和した永続的な企業活動を通して企業価値を向上し、社会に貢献していくことをめざしています。この企業目的を継続的に追求していくために、経営の透明性確保と多面的な経営への監督機能が重要であると認識し、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。

持株会社と事業会社の役割

シチズングループは、シチズンホールディングスと各事業会社の責任と権限を明確化しています。シチズンホールディングスは、グループ経営の全体最適の観点から経営戦略の策定と経営資源の有効活用などによって、企業価値を向上する役割を担っています。一方、それぞれの事業統括会社は業界特性を踏まえた自立的運営を行い、経営のスピードアップ、収益力強化を図っています。また、シチズンホールディングスのなかの、人事、財務、研究開発、知的財産管理、ブランド管理などの分野では、グループ横断的な戦略と事業統括会社の方針を合致させるようにしています。

取締役・取締役会の役割

シチズンホールディングスの取締役会は、社外取締役2名(独立役員として東京証券取引所の制度に基づき届出しています)を含む9名で構成されています。(2011年3月31日現在)

取締役会は、シチズンホールディングスならびにシチズングループの経営方針やその他の重要事項を決定するとともに、取締役の職務の執行を監督しています。また、各事業統括会社のうちの主な子会社の社長も取締役(非常勤)として選任されており、事業統括会社の意見も取り入れた総合的な観点から、意思決定する仕組みとなっています。

さらに、企業経営など豊富なビジネス経験をもつ社外取締役の意見をシチズングループの経営に反映しているほか、アドバイザリーボードとして、社外取締役と社長で構成する指名委員会ならびに報酬委員会を設置しています。

監査役・監査役会の役割

シチズンホールディングスの監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。(2011年3月31日現在)

各監査役は、重要書類などの閲覧、業務および財産状況の調査、取締役会などの各会議体への出席を通じて、取締役の職務執行全般をチェックするほか、内部統制システムの整備運営状況を監査しています。

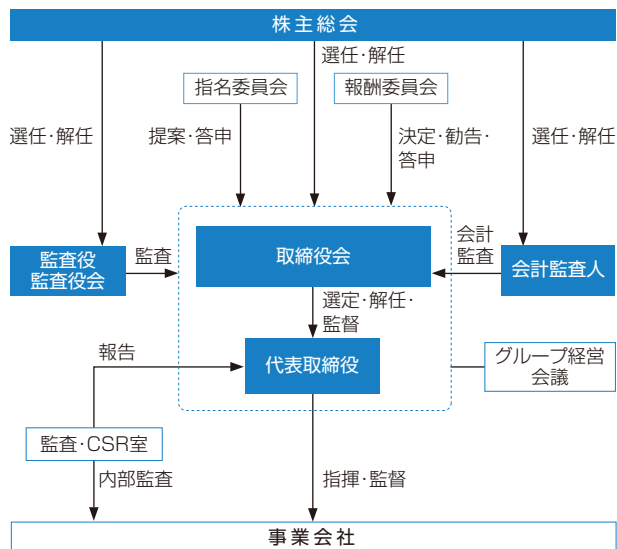
また、シチズンホールディングスおよび事業統括会社の間で整合性のとれた監査機能を発揮できるよう、シチズンホールディングスの常勤監査役と各事業統括会社などの常勤監査役で構成する「グループ常勤監査役連絡会」を開催し、シチズングループとしての監査方針を共有するよう努めています。

内部統制システムについて

シチズンホールディングスでは「内部統制システム構築の基本方針」を定め、内部統制システムのさらなる充実に向けた取り組みを行っています。

内部統制システムが適切かつ有効に機能し、財務報告の信頼性が確保できるよう、シチズンホールディングスを中心としたグループ連結会社の担当者による、「J-SOX内部統制連絡会」を開催し、外部監査機関とも連携を図り、内部統制システムのより一層の整備・運用・評価を進めています。さらに、内部監査に期待されるさまざまなニーズに応えるために、事業統括会社の監査室および主要事業会社の内部監査担当者と連携しています。

シチズンホールディングス コーポレートガバナンス体制



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス » CSR » CSRの基盤 » コーポレートガバナンス

シチズングループのCSRおよびリスクマネジメント

シチズングループ企業行動憲章

シチズングループは、2007年4月の純粋持株会社体制への移行に伴い、グループ各社の役員・従業員がステークホルダーに対する共通の認識をもって行動し、より一層の社会的責任を果たしていけるよう、「シチズングループ企業

行動憲章」を制定しました。グループ各社は、グループ共通の企業理念「市民に愛され市民に貢献する」のもと、事業特性や地域特性、歴史や企業風土などを尊重し、それぞれの責任のもとでCSR活動に取り組んでいます。

シチズングループ企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業理念のもと、

- ① 安全、品質、環境に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
- ② 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
- ③ 広く社会とのコミュニケーションを図り、企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
- ④ 環境問題は人類共通の課題であり、また企業の存在と活動に必須の経営課題であることを認識し、自主的、積極的に取り組みます。
- ⑤ 良き企業市民として、地域社会との共生を大切に、社会貢献活動に努めます。

- ⑥ 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性、多様性を尊重します。
- ⑦ 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
- ⑧ 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。
- ⑨ グループ各社の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、社内に徹底するとともに、関連企業や取引先に周知します。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制の整備を行うとともに、企業倫理の徹底を図ります。

発効日2007年4月6日

シチズングループCSRおよびリスクマネジメント推進体制

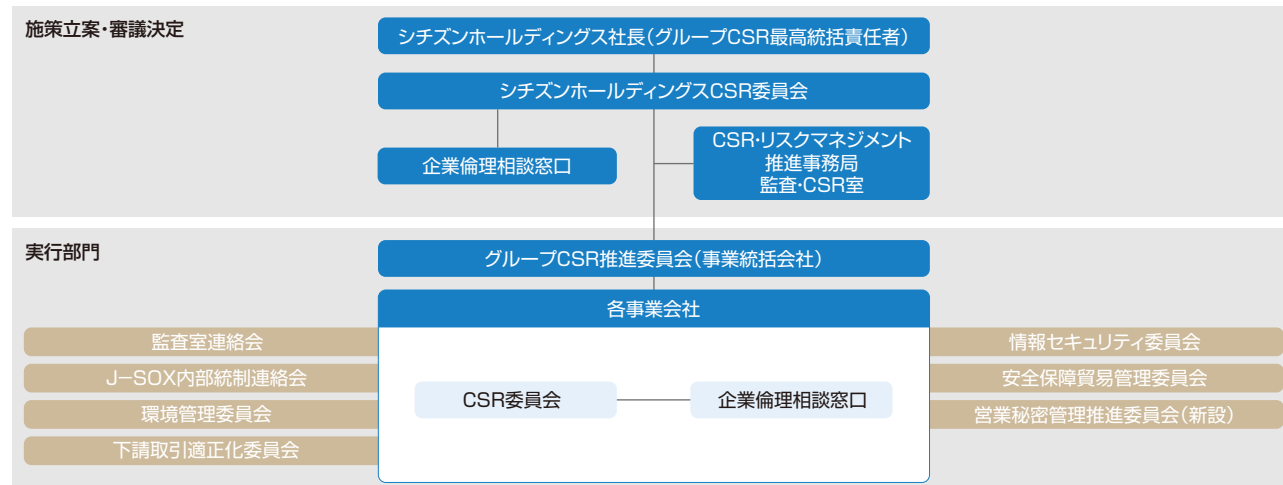
シチズングループのCSR活動・リスクマネジメントは、シチズンホールディングスの社長を最高責任者とし、社長直属のCSR委員会がグループの方針や政策を立案・提言しています。CSR委員会は、シチズンホールディングスの代表委員で構成されています。

実行部門として事業統括会社から選出されたCSR担当責任者で構成されたグループCSR推進委員会を設置しています。事業会社においてはCSR委員会等を設けていま

す。さらに、シチズングループにとって重要なテーマについては、グループ各社が参加する各種委員会等を設けて、施策を立案・実施しています。

各事業会社では、コンプライアンスの啓発活動を展開し、従業員の職域に合わせた教育体系に基づきCSR教育を行っています。なお、グループ全社の新入社員教育・新管理職研修・新取締役研修では対象者全員を一堂に集めCSR・コンプライアンス教育を行っています。

CSR推進体制図



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス » CSR » CSRの基盤 » シチズングループのCSR/リスクマネジメント

CSR活動の目標と取り組み状況

2010年度の取り組み状況

シチズングループとして2010年度は1)海外でのCSR活動の強化、2)災害BCP(事業継続計画)の策定、3)購買面で

のCSR基準の導入、4)社会貢献活動の推進を優先課題としました。この優先課題をもとに各社ごとに「CSR活動目標」を設定し展開しています。海外での活動と事業継続計画に関わる取り組みの一例を紹介します。

2010年度CSR活動目標・実績と今後の課題(一部抜粋)					
A:目標どおり、達成できた B:ほぼ達成できた C:まだ課題が残る D:実施することができなかった					
企業行動憲章	CSR活動目標	会社名	実績	評価	今後の取り組み・課題
第1条 製品の安全・品質	BCP(事業継続計画)への適切な対応 ●モデル事業部での先行計画の実施 ●全社対応の中期計画策定	シチズンセイミツ	●モデル事業部では、取引先からの要望事項に対応し、主にソフト面での活動を展開した。 ●全社対応の「事業継続計画」の立案と提案については、マニュアル・手順書の作成を進めた。 ●次年度の本格運用に向けての中期計画を策定した。	A	●モデル事業部の活動を全社に展開。 ●次年度の投資計画に発電機を追加。 ●震災対応の課題に基づき事業計画書・マニュアル・手順書を改訂。
第4条 環境管理	工場の省エネルギー化 ●LED照明化率50%目標	シチズン電子中国子会社	玄関・ロビー・見学者用廊下・応接室・会議室・オフィスにLED照明器具設置。新工場全体の約20%相当。	C	シチズン電子本社が開発したLED照明器具が入荷次第、増設。
第8条 海外現地への貢献	中国工場でCSR活動に取り組み、地域に愛される企業をめざす ●従業員の安全 ●法律の遵守 ●環境改善の取り組み	シチズン東北中国子会社	●地元区政府の「100万従業員素質教育活動」に応じて、安全作業に重点置いて教育し、現場ケガ率は18%低減した。 ●「清潔生産」活動は今後も継続する。 ●地元市政府の「緑城減廃」の活動で表彰された(奨励金)。	A	●安全:生産現場の隠れた危険を排除。 ●福祉:「住宅積立金」制度導入。 ●環境:「清潔生産活動」を継続(研磨埃の排出抑制)。 ●生産向上・品質向上活動(顧客の信頼性向上)。
第8条 海外現地への貢献	法規制、制度改革への対応 ●環境規制への対応(排水、大気等) ●輸出入(貿易管理)規制への対応 ●制度リスクへの対応	シチズンセイミツ中国子会社	●環境規制:排水・大気規制、環境指標の測定に対応。通常排水の管理、ゼロ排水の対応。 ●輸出入規制:バランス管理がやや不十分。 ●制度リスク:労働保険の加入は行政と相談し展開。	B	●法令・制度対応へのさらなるレベルアップ。

2010年度の総括と今後の課題

2010年度は、4つの優先課題に重点を置いて取り組みました。2011年度は引き続きグループ全体の底上げをしなが

ら着実に成果につなげたいと考えています。

社内通報制度

シチズングループでは、法令違反ないし不正行為による不祥事の未然防止および早期発見、自浄作用の向上のため「社内通報制度規程」に基づく「企業倫理相談窓口」を設けています。この規程では、通報者の秘密の厳守、被通報者の反論の機会、通報者に不利益な処遇がなされないことなどを定めています。

さらに2008年から外部通報窓口も設置し、匿名で通報

できるようにするなど通報環境を整えました。

2010年度CSR意識調査では、約75%の従業員が企業倫理相談窓口を知っていると回答し、また「企業倫理相談窓口を利用しますか?」の問いで、利用しない18%、わからない47%とあり、その理由として第1位は「そのときの案件による」であり、第2位が「秘密厳守が保たれるか不安がある」でした。この結果を踏まえ、今後も継続して相談窓口の周知、信頼性を高めるための努力を行っていきます。

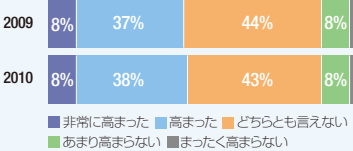
TOPICS

CSR意識調査

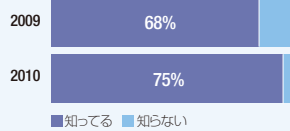
シチズングループでは、CSRや企業倫理に関する認知状況を把握するために、事業会社の従業員(派遣社員含む)を対象にCSR意識調査を毎年行っています。

【回答者数】2009年度: 6605/9031名(回答率73.1%)
2010年度: 6651/8677名(回答率76.7%)

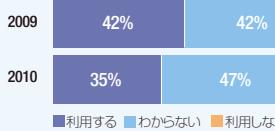
Q.1 CSRに取り組むことによってあなたの遵法精神が高まったと思いますか?



Q.2 あなたは企業倫理相談窓口を知っていますか?



Q.3 法令違反を見つけた場合、企業倫理相談窓口に通報しますか?



リスクマネジメントの基本的な考え方

シチズングループでは、企業理念の実現、経営計画を達成する上で阻害要因となるリスクを適切に管理し、シチズングループとしての社会的責任を果たし、かつシチズングループの持続可能な企業価値の向上に資することを目的として、リスクマネジメントに取り組んでいます。

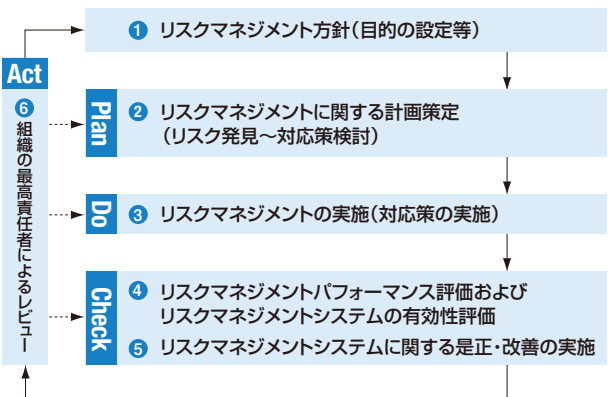
グループを取り巻くリスクを「経営戦略リスク」と「業務リスク」に分類し「経営戦略リスク」は経営会議、事業統括経営会議で取り扱い、「業務リスク」は、グループ全社で組織的に取り組んでいます。

リスクマネジメントの推進

シチズングループでは、「グループ業務リスクマネジメント基本規程」を制定しています。実行部門のグループCSR推進委員会はグループ各社の業務リスクを把握し、リスク対応に関連会社単位で行うか、グループを網羅する委員会等で行うかを判断し、CSR委員会に提案します。グループCSR推進委員会から提案されたリスクはCSR委員会で審議され、リスク対応のためのリソースをグループ全体で調整し、必要に応じてグループ経営会議に提案を行います。

2010年度は、主に事業会社各社でリスク分析を行い、評価し、2011年度に向けて各社独自の展開を検討しました。またシチズングループ全体として優先度の高いリスクとして挙げられる災害BCP(事業継続計画)については各社が取り組みを開始し、さらに共通課題を整理しながら推進していきます。営業秘密管理についても2011年度からグループ全体としての取り組みを開始していきます。

リスクマネジメントプロセスの基本



海外でのリスクマネジメント

海外でのリスクマネジメント実施にあたっては、事業統括会社が主管で進めることが基本となりますが、2010年度は中国地域の状況を把握し課題を整理するところから進めています。中国地域に関しては、各種法令・制度改正、労務問題を抱えた人事政策等のリスク対応課題がありますが、経営戦略的な要素もあり、業務リスク対応としては①中国拠点の情報収集・共有の仕組み(情報希薄によるリスク)②緊急事態時の対応の仕組み(緊急時の対応遅延によるリスク)③日本側の本部・本社機能としての必要最低限の日常管理の仕組み(情報混乱のリスク)を関係部署と共有して推進しています。

事業継続計画(BCP)

グループ各社のリスク評価により、優先度の高いリスクとして挙げられた自然災害BCPに取り組んでいます。

自然災害BCPは各社の事情(地域性、事業規模・形態)によって取り組む内容は異なるため、各社ごとに適した計画を検討し取り組みを開始しました。各社で取り組むなかで、経営資源の効率上グループ各社単独で取り組むのは難しい内容については、グループの共通課題として対応の方向性を検討しています。

自然災害BCPの重点施策としては、①指揮命令系統の明確化、②本社等重要拠点の機能の明確化、③対外的な情報発信、④情報システムのバックアップ、⑤製品、サービスの供給関係が挙げられます。それぞれの内容についてはグループ各社の優先度に沿った展開を図っています。取り組みの重点課題としては、災害時の人命の安全確保と安否確認を優先して進めています。

2011年3月に発生した震災にあたっては、従業員および家族の安否確認に手間取ったことなどの反省をふまえ、グループ全体の従業員および家族の安否を早期に把握・確認し、迅速な指示ができる「安否確認システム」を導入しました。

お客様とシチズン

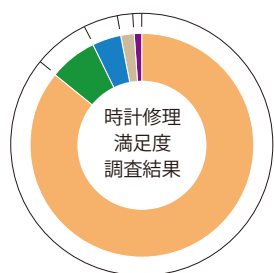
お客様満足のための基本的な考え方

シチズングループでは、「顧客満足」を経営の基本とし、常にお客様の視点に立った製品・サービスの品質実現をめざし、お客様の声に耳を傾け、製品開発やサービスの改善に役立てています。

お客様時計相談室の取り組み

シチズン時計では、お客様満足のさらなる向上のために、品質・機能・デザインなどの商品力の向上に加え、アフターサービスを含めた総合的な品質の向上をめざし取り組んでいます。2010年度の新たな取り組みとして、①テキスト分析ツール「テキストマイニング」を導入。お客様時計相談室に集まるお客様の声を分析して関係部門への展開をさらに進めるための仕組みづくり、②サービスセンターの主要業務である時計修理のお客様満足度調査を実施しました。調査の結果、86%のお客様は当社の修理に満足いただいています。今後も満足度をさらに向上するための改善を図っていきます。

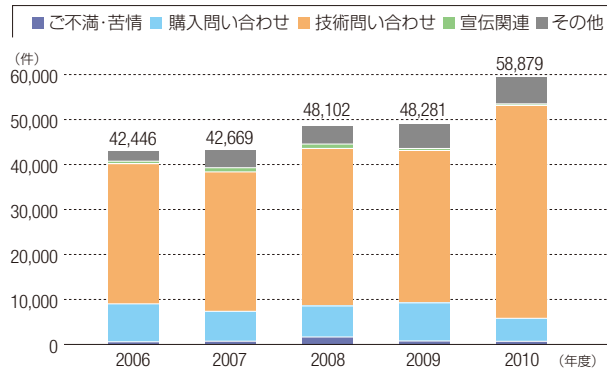
時計修理満足度調査結果



サービスセンターの対応について

丁寧	86%
やや丁寧	7%
普通	4%
やや不親切	2%
不親切	1%

お客様時計相談室受付件数の推移



※2010年度から受付件数が大幅に増加しているのは、お客様時計相談室に加え、子会社のシチズンカスタマーサービスの受付件数をカウントしたためです。



テキストマイニング

マップは、シチズンお客様時計相談室にお問い合わせのあった声を集計しマップ化したものです。相対関係にある用語とその出現頻度を表しています。相談内容は「修理相談」「操作方法」「部品交換」「商品購入」に分かれています。操作方法、調整の声が多いということは、お客様にとって使いやすい時計が求められていることを表しています。



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス CSR 社会とシチズン お客様とシチズン

Interview

お客様の声を活かしたものづくり

お客様の声が、未来につながる技術を生む

シチズン時計の製品には、お客様から寄せられたさまざまな声が反映されています。「アテッサ」は、チタンを使用しているのが特徴。発売以来20余年が経ちますが、チタンを用いた一般工業製品として継続的に量産している数少ないメーカーです。当時から世界に先駆けて環境保全に取り組みはじめていたシチズンでは、チタンの豊富な埋蔵量と、アレルギーを起こしにくい性質に着目しました。「金属アレルギーの起こらない時計を」「時計は美しく」といったお客様のニーズに応えるため、加工の難しいチタンを用いてシャープなラインと美しい鏡面仕上げを実現する技術を生み出しました。

また、りゅうずを回すだけで時差修正が可能となる電波時計ダイレクトフライトや光を電気エネルギーに変換し、定期的な電池交換の必要がないエコドライブも、「簡単に時差修正したい」「時刻合わせがわずらわしい」「電池交換が面倒」といったお客様のニーズに応えるた

めに開発されました。

時計は、デザインの美しさと機能性のバランスをとるのが難しい製品ですが、シチズンでは表面処理から構造開発に至るまで、いわば、見えるところも見えないところもすべてにお客様のご要望に応えるべく努力しています。大切なのは、お客様のニーズに応えることで、揺るぎない信頼を構築するとともに、より一層喜ばれる製品のご提供につなげることです。今後も、蓄積してきたノウハウを活かし、お客様への真摯な姿勢を忘れることなく、技術革新に取り組んでいきます。

技術開発本部
商品開発課リーダー

山川 人大



細かい配慮でお客様にご満足いただく製品を

シチズン・システムズは「TR-10」という新しい活動量計を2010年秋に発売しました。2005年ごろから登場した加速度センサーを用いる歩数計は歩くことで生じる波形信号から歩数を計測します。しかし、波形信号が激しく振れるジョギングでは正確に計測することができず、お客様から「ジョギングでも正確に測りたい」という声が多く寄せられていました。そこで波形信号の処理技術をさらに高め、「TR-10」ではジョギングでの利用も可能にしました。



写真左から
民生機器事業部

企画室 室長

木内 靖弘

技術部 部長

林 康弘

品質保証室 室長

西澤 裕一

シチズン・システムズ

また、早朝や仕事帰りにご使用されるお客様から「暗くても見える表示画面を」というご要望があり、バックライトを搭載しました。さらに、従来の歩数計は汗や雨が染み入り内部基板が腐食するという課題があり、「TR-10」では防滴から防水に機能を進化させ、より水や汗に強い構造を実現しました。

こうした改善が、他社との差別化、製品の付加価値向上につながっています。このように、製品開発にはお客様のお声が不可欠です。シチズン・システムズではお客様相談室や品質保証部門など各部門が連携して意見交換や検討を重ねることで、より良い製品を開発しています。今後も、細かなところまで配慮したもののづくりを継続し、さらなるお客様満足度の向上に努めていきたいと思っています。



「TR-10」の防水試験



TR-10-GR

株主・お取引先とシチズン

株主・投資家とともに

利益還元方針

シチズンホールディングスは、配当および自己株式取得の合計額の、連結当期純利益に対する比率を「株主還元性向」ととらえています。この方針を定めた2005年度以降、3年～5年の期間で比率を平均30%以上とすることをめざしています。配当につきましては、連結業績との連動と安定配当のバランスを勘案し決定しています。

開かれた株主総会

シチズンホールディングスは、より多くの株主の皆様にご定時株主総会に出席していただけるよう、集中日を避け、収容人数や交通アクセスに配慮して会場を決定しています。

また、2007年の総会からは、議決権を行使しやすいよう、機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームの利用を可能にするなど、意見や質問をいただきやすい仕組みづくり、スムーズな運営を心がけています。

■ 外部機関からの評価

シチズンホールディングスは、2004年から7年連続で、ベルギーのSRI(社会的責任投資)評価機関であるエティベル社の「エティベル・サステナビリティ・インデックス」に選ばれています。



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス》CSR》社会とシチズン》
株主・投資家とシチズン／お取引先とシチズン

お取引先とともに

購買の基本的な考え方

シチズングループはお取引先との関係を重視して、常に良好な関係を築くべく努力するとともに、相互に切磋琢磨しながら成長するビジネスパートナーでありたいと願っています。そのため、シチズングループ各社では、お取引先との日常的な対話を通じて自社の方針をお伝えするとともに、お取引先からは購入資材の市場動向品質価格デリバリーに関する改善提案をいただき、双方が共通の認識に立った資材購入取引ができる環境づくりに取り組んでいます。

下請取引適正化委員会

「シチズングループ下請取引適正化委員会」では、教育と監査を重点に活動を行っています。教育は、基礎編と実務編を行い、延べ338名が受講しました。監査は当委員会による内部監査を10社、自社組織による自主監査を7社が実施しました。今後もグループ会社と連携をとりながら、地道な遵守活動を行っていきます。

グループ各社の取り組み

■ シチズン電子のCSR調達

シチズン電子では、CSRの理念およびシチズングループ企業行動憲章のサプライチェーン全体への展開を実現するため、「購買先認定規定」を従来のグリーン調達に加え、コンプライアンス全般の遵守を追加した「CSR調達ガイドライン」に改定しました。お取引先には、「CSR調達ガイドライン」に対する宣言書の提出を要請し、取引先認定監査の条件にも追加しました。

従業員とシチズン

多様性の尊重

グループ方針

シチズングループは従業員一人ひとりを尊重し、多様性を認め、活かせる環境をつくることが経営の責務であると考えています。

採用活動

シチズングループ各社は中長期的視野に立った定期的な新卒採用や即戦力としてのキャリア採用を実施しています。また、有期雇用の契約社員を本人のやる気や能力などにより、正社員へ登用する制度を導入しています。雇用にあたっては、一人ひとりの能力・適性・意欲を重視して、機会の均等と多様性の確保に努めています。

新卒採用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度	2010年度
男	91名	100名	68名
女	32名	34名	19名
計	123名	134名	87名

TOPICS フジミ

山梨県精神保健協会より表彰

シチズンセイミツの子会社フジミでは障がい者雇用の取り組みが認められ、2010年11月に山梨県精神保健協会より表彰を受けました。2005年5月に内職で行っていた作業の増産を機に、精神障がい者5名を実習生として受け入れました。当初は適性職種の選定、作業環境、交流などの苦労がありましたが、メンバー全員が作業を行えるようになりました。2006年12月に社会適応訓練協力事業所として登録され、3年間の訓練終了後も継続して働いている方もいます。2010年度は2名の訓練生を受け入れました。今後も障がい者の方の社会参加を支援していきます。

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シチズンホールディングス》CSR》社会とシチズン》従業員とシチズン

中途採用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度	2010年度
男	51名	14名	29名
女	10名	11名	27名
計	61名	25名	56名

障がい者雇用の促進

「ともに働く」を基本方針に、障がい者雇用に積極的に取り組んでいます。シチズングループ主要16社の2010年度の雇用率は、法令に基づく届出(6月1日現在)では法定雇用率を上回っており、今後もさらに雇用拡大、職域拡大に努めていきます。

障がい者雇用状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度	2010年度
雇用率	1.58%	1.69%	1.86%

※2010年6月1日現在雇用率



従業員とシチズン

人材の育成

グループ方針

シチズングループは、各事業会社の方針と責任において、事業環境に適應できる人材を育成しています。グループ対象の育成メニューとして、シチズンホールディングスが主催する階層別教育と、シチズングループ各社で展開する教育があり、総合的な人材育成環境を整備しています。

人材育成プログラム

シチズングループ各社で展開する人材育成を基本とし、シチズンホールディングスが主催するグループ階層別教育と組み合わせ、事業環境に適應できる人材育成をめざしています。シチズンホールディングスはグループ全体の視点から、新入社員・新管理職・新任役員向けの階層別教育を実施しています。

また、シチズンホールディングス、シチズン時計などでは国家資格・公的資格などの取得者に奨励金を支給する「シチズンビジネスライセンス制度」により、従業員が自己啓発する風土づくりを進めています。

TOPICS シチズン時計グループ

時計技能競技会でダブル優勝

第23回時計技能競技全国大会が2010年10月に開催され、シチズン時計グループ6社から第一部門、第二部門に計11名が参加しました。第一部門でシチズン時計の中野正通が優勝、シチズン平和時計の布山賢二が第3位、第二部門ではシチズン東北の渋谷奈緒美が優勝、シチズン時計ミヨタの山口国彦が第3位と4つの賞をいただくことができました。今後も従業員一人ひとりの技能向上に向けて継続して取り組んでいきます。



グループ各社の取り組み

■能力開発の推進

シチズン時計では、従業員の技能・技術の向上をめざし、時計事業グループ各社と協力して継続的に時計学校活動に取り組んでいます。毎年、技能検定や社内検定にも挑戦しており、2009年には技能検定活動の普及振興への貢献により、厚生労働大臣より「職業能力開発関係優良事業所」として表彰されました。

時計技術の向上はもちろんのこと、従業員のモチベーションアップにもつながる活動として、これからも継続的に取り組んでいます。



■人間関係を重視した技能継承の取り組み

シチズンセイミツでは、技能継承・人材育成の取り組みにおいても、人間関係を重視した取り組みを行っています。継続していくべき技術・技能をもつベテラン従業員を「指導員」や「マイスター」に認定し、指導員と指導を受ける若手従業員の関係を「師匠と弟子」として登録しています。弟子の育成状況を定期的に確認し、また全社会議の場で「師匠と弟子」が自らの取り組みを報告することが、一層の技術・技能継承、人材育成へのモチベーションとなっています。

もともとのをつくるのが大好きで、一つひとつの部品を組み上げて時計が動いたときの達成感が時計づくりの魅力だと思います。失敗しながら積み重ねた練習が自信となり、大会では実力が出しきれたこと、それが結果に結びついたことが、本当にうれしかったです。

シチズン東北 時計事業部 組立部
渋谷 奈緒美



ワークライフバランスの推進

働きやすい職場をつくるための各種制度

シチズンホールディングス、シチズン時計などでは、職場の実情に合った勤務体系の弾力的な運用など、従業員が各種制度を取得しやすい環境づくりに取り組んでいます。育児に関わる就業時間の短縮期間は小学校3学年修了までであり、介護に関しては、就業時間の短縮を2時間としています。

また、プール休暇の使用方法として、子の看護を含む子育て支援に関する制度を中学校就学修了までに延長し、柔軟な働き方を促進しています。

育児休職制度・介護休職制度利用状況(グループ主要16社)

2010年度	男	女	計
育児休職制度利用状況	3件	42件	45件
介護休職制度利用状況	0件	0件	0件

TOPICS シチズン東北

社内保育室の設置

シチズン東北のシンボルである新棟を2008年4月に建設した際に、シチズンの名づけ親であり郷土の偉人である後藤新平にならい、100年先を見据えた視点に立ってその役割を明確にし、それを実現するためのさまざまな工夫を盛り込みました。「保育室バッケ」(岩手の方言でふきのとうのこと)もその一つです。働く従業員のお父さんやお母さんを支援するとともに、バッケで育った子供が時計学校で時計のもののづくりに触れ、やがて、次のシチズンを担う人材として育ててもらえればという夢と希望が込められています。バッケが職場の隣にあることから、子供たちと従業員の小さな交流があり、互いに良い刺激になっていると思います。定員5人(保育士2人)に対し、現在ほぼ満員状態です。さらに社内のニーズに対応するように、場所、保育士の確保について検討していきます。



保育室/バッケの子供たち

TOPICS シチズン平和時計

男性の育児休暇取得

シチズン平和時計では、次世代育成支援の一環として、男性の育児休暇取得を推進する取り組みを行っています。これまでは、育児休暇中は無給であることから男性の休暇取得には抵抗がありましたが、育児休暇期間中5日間を有給で取得できるようにすることで2010年度は3名の男性従業員が育児休職を取得しました。今後も男性従業員が育児に参加しやすい環境を整えるための取り組みを積極的に行っていきます。

男性でも育児目的の休暇が取りやすくなり、有意義に使うことができました。



シチズン平和時計
時計製造部
モジュール課
藤本 英樹

健康・安全で働きやすい職場づくり

健康保持・増進への取り組み

シチズン健康保険組合は、従業員とそれを支える家族も含めての健康保持増進に向けて事業運営に取り組んでいます。特定健診については家族の健診率向上をめざした活動を行っています。また特定保健指導については事業所の協力を得て、メタボリック症候群(予備群)該当者を対象として保健指導を実施しています。

そのほかジェネリック医薬品使用促進案内、従業員と家族が参加できる「ふれあい健康教室」、24時間電話対応の「シチズン健康相談」等、家族も含めたサポートに力を入れています。

東京事業所の安全衛生活動

東京事業所では、安全衛生委員会を中心に従業員の安全と健康を確保するため行動計画を作成し活動を推進しています。安全活動の基本は、職場における危険要因の除去と、従業員各自が危険を察知して回避する行動ができるようになることです。設備安全専門審査会では設備の本質安全化を図り、各職場におけるリスクアセスメントの実施や職場交換パトロールなどで危険要因を摘み取っています。2010年度は「従業員の健康レベルの底上げ」を重点施策としました。

昼休みの時間を利用した事業所内ウォーキング、階段昇降、体操などの運動習慣づけを「昼スポ部」活動として、実績が目に見えるかたちで職場に掲示してモチベーションアップを図りました。またAEDを2台増設して3台体制で事業所内のどこでも3分以内でのAED使用を可能とするとともに、普通救命講習を実施して現在では従業員の7%が操作できるようになりました。

特定健診および特定保健指導実施状況(32事業所)

	2008年度	2009年度	2010年度
特定健診率(本人+家族)	77.2%	75.5%	75.6%
メタボリック症候群該当率	10.4%	10.8%	11.5%
メタボリック症候群予備群該当率	10.4%	11.9%	11.8%
特定保健指導実施率	66.9%	31.3%	36.4%

災害発生状況(グループ主要16社)

	2008年度	2009年度	2010年度
死亡事故数	0件	0件	0件
休業事故数	3件	10件	6件

TOPICS シチズン電子

中国工場のOHSAS18001認証取得

中国・広東省の製造子会社の訊科電子において、OHSAS18001(労働安全マネジメントシステム)を2011年2月に認証取得しました。労働安全衛生を設備投資等の“ハード面”だけではなく、人の側面を考慮した“ソフト面”を含めて、疾病・災害の“事前予防”を行うことのできる経営管理(マネジメント)の仕組みを構築し管理・運営していくものです。CSRとしての要求事項に加え、顧客要請にも答えていけるように今後の定着を図っていきます。



OHSAS訓練

地域社会とシチズン

CITIZEN OF THE YEAR

シチズン・オブ・ザ・イヤーとは？

市民社会に感動を与えた無名の人々を選び毎年その行動や活動などを讃えています。

「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した市民を選び毎年顕彰する制度です。シチズン創立60周年に際し、広い視野から無名の市民を讃える賞が見られなかったことから社名の「CITIZEN(市民)」にふさわしいものとして1990年に創設されました。これまで、日本人の方はもちろん、日本で市民社会に貢献された外国人の方も顕彰し、新聞やテレビなどでも紹介されている賞です。

地域貢献

半世紀にわたり、横断歩道で登校する児童の安全を見守り続ける

1961年の小学校入学式の日、交差点で新入生が車にはねられる事故が起こったのをきっかけに、吉田さんも応援で立ち番に参加。以来毎朝交差点に立ち、児童の安全を見守り続け、今春50年を迎えた。

よしだ もりまつ
吉田 守松 さん
(愛知県在住)



自己実現

夏休みの観察・実験を通じ、「アリジゴクは排泄しない」という通説を覆す

夏休みの自由研究でアリジゴクの観察をしているとき、黄色い液体を出しているのに気づく。「おしっこ」ではないかと調べたが、納得のいく答えは得られず、さらに実験と観察を続け、黄色い染みを確認した。

よしおか りょうと
吉岡 諒人 さん
(千葉県在住)



市民貢献

がんを乗り越え、自らの落語で同じ病の患者とその家族を励まし続け10年

がんを患い、術後5年の節目が過ぎたとき、支え励ましてくれた患者仲間とその家族を招いて落語の独演会を開く。以後、「いのちに感謝の独演会」として続けられ、毎年、新作の創作落語で、希望と勇気を与え続けている。

ひぐち つよし
樋口 強 さん
(千葉県在住)



環境ワークショップへの支援

シチズンホールディングス

西東京市にある東京大学田無試験地で開催された「森のアート海のゲイジツ」〜昆虫たちの小宇宙へようこそ〜(主催:ワンダーアートプロダクション)へ協賛しました。



タオル帽子講習会

シチズン東北では、2009年度シチズン・オブ・ザ・イヤー受賞者吉島美樹子さんを迎えて「タオル帽子講習会」を行いました。39名が参加し、心を込めてタオル帽子をつくり、後日、岩手県立中部病院緩和ケア科へタオル帽子52枚を寄付しました。



実業団卓球部による講習会

創部45年を迎える伝統と高い実力を誇るシチズンホールディングス卓球部は、全国各地で卓球講習会を行っています。2010年度は、全国各地で19回実施し1,796名の方に参加していただきました。



ものづくり教室

シチズンホールディングスでは西東京市の小学生親子41名を対象に「ジュニアものづくり教室」を開催しました。2009年厚生労働大臣表彰「現代の名工」に認定されたシチズン平和時計の従業員を講師とし、時計組み立てを体験されました。



教育機関への出前授業

シチズン東北では、北上川流域のものづくりネットワーク主催の各種学校への出前授業に積極的に参加しています。若手、中堅社員などが「学生が今知りたいことは何か」を考え、自分の体験談をもとにそれぞれの要望に合った授業を行っています。



生物多様性の保全

シチズンファインテックミヨタ北御牧事業所では、絶滅危惧1類に指定されているオオルリシジミ蝶の保護活動を2003年より行っています。敷地内に生息する食草「クララ」の保護、増殖等により自然繁殖が確認されています。



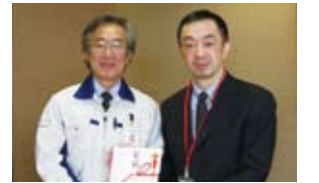
児童養護施設退所者へ腕時計寄贈

シチズンボランティアクラブでは、従業員の所持する未使用または中古腕時計を収集し、シチズンカスタマーサービスのメンテナンスを経て、NPO法人ブリッジフォースマイルへ計69本を寄贈しました。



ろうあ者卓球協会へ協賛

シチズンホールディングスは、2007年よりろうあ者卓球協会を支援しています。また、シチズン・システムズは第33回全国ろうあ者卓球大会へ自社製品の検温状態を振動で知らせる体温計を寄贈しました。



職場体験学習の実施

シチズングループ各社は、工場見学や中学生の職場体験学習・インターンシップを積極的に受け入れています。シチズン東北では、2010年3月までに48団体1,545名の方に参加していただきました。



信州匠検定講師派遣

機械式腕時計の修理技能向上を目的に長野県時計宝飾眼鏡商業協同組合、メーカー、長野県で開催している信州匠検定講習会に、時計修理士2級取得者であるシチズン平和時計の従業員2名が3級検定の指導を行っています。



「そらべあ×シチズン」共同で太陽光発電設備を寄贈

シチズン時計では、光発電エコドライブ製品の売上金の一部を「そらべあ基金」に寄付し、全国の幼稚園もしくは保育園に太陽光発電設備を共同で寄贈する活動に取り組んでいます。2010年度は、3基の太陽光発電設備を寄贈しました。



シチズングループの環境経営

環境社会ビジョンと環境方針

シチズングループはシチズン環境社会ビジョン(2025)に基づき、シチズングループ環境方針を改訂しました。グループ各社の心を合わせたいという想いから、「小さいは、エコになる。」という“スローガン”を設けました。

シチズングループはこれまで小型精密技術を軸にして生産性向上を進めてきました。これを“環境の目”で見ますと、「生産性向上＝環境負荷削減＝利益創出」となります。つまり、省スペース・省資源・省エネルギーという環境価値に置き

換えることができます。私たちは、日々のものづくりのなかですでに環境活動を十分に行っていることに気づきました。「小さいは、エコになる。」のスローガンのもとに、「小さくすること」までできているものづくりに“環境の目”をさらに加えて、「エコになる。」を見出して、シチズングループの環境価値としたいと考えています。

2010年度目標と実績			評価	○達成	△一部達成	×未達成
2010年度目標	2010年度実績	評価				
1.ダウン・サイジングの実施						
■生産革新/技術革新により環境負荷を削減し、利益創出およびCO ₂ 削減を実現する	東京：94のテーマで活動を実施 所沢：38のテーマで活動を実施					
■業務目標(方針管理)等から環境につながるテーマアップ 省資源、省エネルギー、省スペース、リサイクル性向上、化学物質の使用量削減、稼働率向上など	シチズン時計では、マイクロ化の活動成果を「みなし効果」の考えで算出					○
2.環境配慮型製品の新しい環境価値の創出						
■製品または部品の新たな環境配慮内容の発掘	・具体的な取り組みに至らず ・一部で有害化学物質の代替や化学物質管理の維持を実施					△
■“エコドライブ”の新しい価値創出(時計)	・海外のエコマークの取得(台湾グリーンマーク取得：2010年11月)					
3.環境リスクの低減						
■グローバル環境法規制への対応	改正情報を収集 REACH規則、米国規制、中国規制など					○
■省エネ法への対応	CO ₂ (電力+ガス)の削減(原則：年1%)					
東京：CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲50%(11,800t-CO ₂)	1999年度比▲54%(10,803t-CO ₂)					○
所沢：CO ₂ 排出量削減 1999年度比▲12.6%(10,900t-CO ₂)	1999年度比▲17%(10,346t-CO ₂)					○
■廃棄物削減活動の推進						
東京：産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲64%(100t)					○
所沢：産業廃棄物の削減 維持管理	1999年度比▲50%(85t)					○
グループ：再資源化率 99%	99%					○
4.環境社会貢献活動による地域社会とのコミュニケーション強化						
	CSR活動で実施					○



より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。

シチズンホールディングス》CSR》環境とシチズン》環境ビジョンと環境方針

環境マネジメント

環境経営推進体制

シチズングループは、効率的かつ的確に環境経営を推進するため、グループ横断の環境管理体制を構築しています。年2回、国内拠点の環境担当責任者が集まって「グループ環境管理委員会」を開催し、各社の活動状況を把握するとともに、年度の環境方針、共通課題を検討・決定しています。

国内の生産会社は、ISO14001の認証を取得しており、各社で業態の特徴を出した環境管理活動を推進しています。

海外の生産会社は、環境配慮型製品を製造する上で重要となるグリーン調達や、化学物質管理に重点を置いた活動を展開しながら、順次ISO14001の認証取得を進めています。また、非生産業務に携わる会社は、各社の特徴に合わせた環境負荷低減活動を行っています。

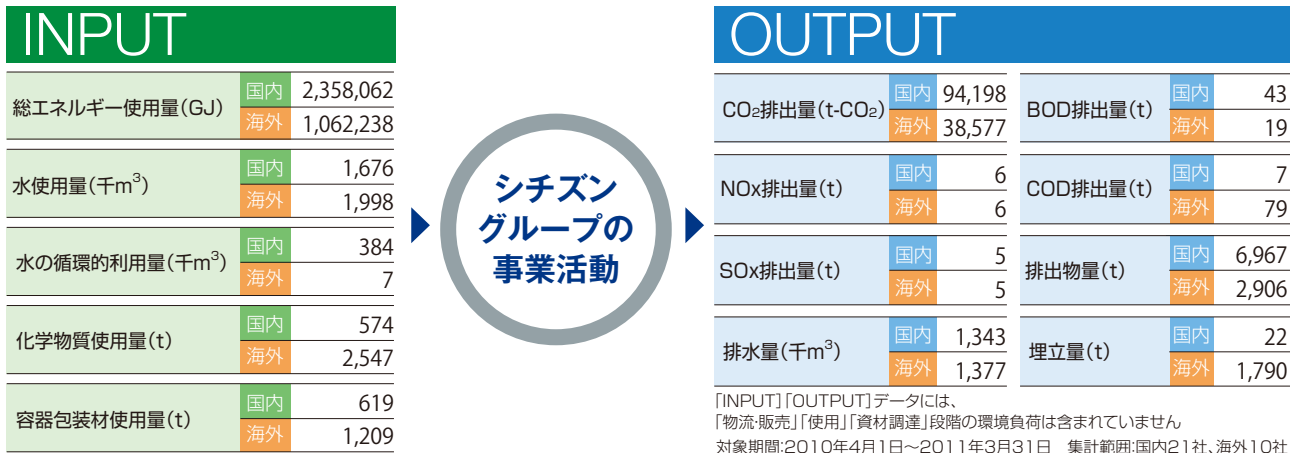
環境教育と啓発活動

環境経営を推進するためには、グループの従業員全員が環境活動の重要性を認識することが不可欠です。たとえばシチズン東京事業所では、教育体系に基づく新入社員教育などに、環境教育を組み込んでいます。また、各部門の環境実務担当者を対象にした「環境担当者教育」や「内部監査員養成教育」および「環境法令遵守評価教育」を年1回実施しています。毒劇物や危険物を扱う生産部門においては、緊急事態を想定した訓練も実施しています。

さらに、自主的な資格取得を奨励する独自の「ビジネスライセンス制度」を設け、公害防止管理者、エネルギー管理士などの公的資格の取得をバックアップしています。

事業活動と環境負荷

グループ全体のエネルギー・化学物質などの投入量、CO₂や廃棄物などの排出量を的確に把握し、計画的な環境負荷低減活動に活かしています。



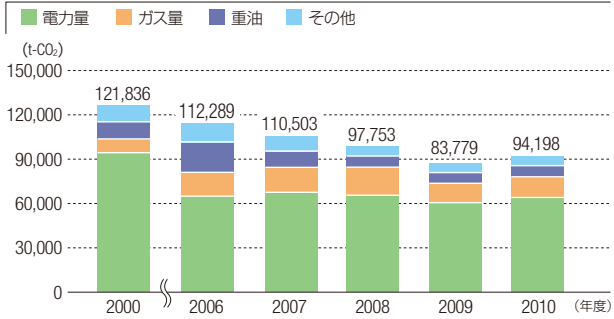
シズングループの環境経営

地球温暖化ガスの削減

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シズンホールディングス》CSR》環境とシズン》地球温暖化ガスの削減

地球温暖化ガスの排出量削減

シズングループではCO₂排出削減を効率的かつ着実に進めるため、各事業所の有効な活動を取り入れながら省エネ活動に努めています。2010年度のエネルギー起源CO₂の排出量は、2009年度比12%増の94,198トンとなりましたが、中期計画の2000年度基準では10%削減の目標に対し、約23%の削減となり、目標を達成しました。今後も高効率機器の導入、省エネ制御の採用などを積極的に実施していきます。

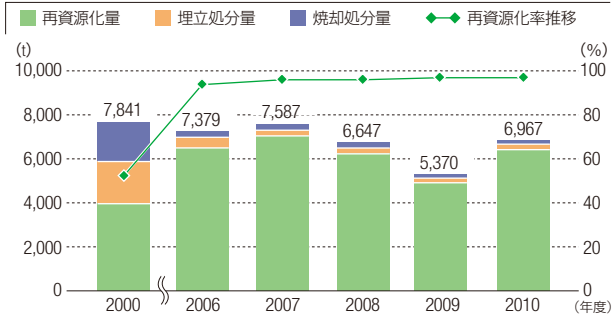
シズングループのCO₂排出量の推移

資源の有効活用と廃棄物の削減

廃棄物削減活動の推進

シズングループでは、循環型社会に寄与するため、廃棄物となるごみをゼロにする活動に取り組んでいます。2010年度はグループ全体で再資源化率は99%となり目標達成、国内では17事業所がごみゼロ(再資源化率99%以上)を達成しました。廃棄物については、廃棄物総量※1で約1,023トン増加しました。2011年度は、グループ全体で再資源化率99%以上(ごみゼロ達成)の維持を目標としていきます。

シズングループの排出物量※2の推移



※1:廃棄物総量=産業廃棄物量+一般廃棄物量
※2:排出物量=産業廃棄物量+一般廃棄物量+有価物量

事例紹介

太陽光発電パネルの設置

シズンセイミツではCO₂排出量の削減方策の一つとして、本接客棟の屋根に太陽光発電パネルを2010年9月に設置しました。15千kWh/年の発電量を見込んでいます。また接客棟の玄関口にモニターを設置して日照時間や発電量などを表示して、お客様に対しても環境に配慮した事業活動として紹介しています。その他の環境投資として、吸収式冷水機をターボ式冷凍機に入れ替えることにより、CO₂排出量400トン/年を削減しました。2011年度以降も中期の環境方針に沿って環境負荷低減とコスト低減活動を進めていく予定です。



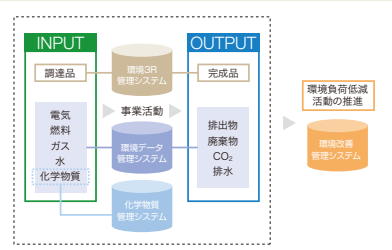
太陽光発電パネル

事例紹介

環境3Rおよび改善管理システムの運用

シズンセイミツでは、「3R活動から5億円の利益を創出する」という中期環境目標(2010~2012年度)のもと、製造プロセスの環境改善活動をスタートし、2010年度に管理システムを構築しました。まず事業活動によって発生する環境負荷を把握するため「環境3R管理システム」を構築し、調達品(インプット)の量および金額と完成品(アウトプット)の量および金額を定量的に集計しています。さらに環境改善テーマを「環境改善管理システム」に登録することにより環境改善活動の効果を削減量および金額にて集計しています。

2010年度に改善管理システムに登録したテーマ数は98件、効果金額は67.8百万円となりました。今後、環境3Rおよび改善管理システムを有効的に活用し、環境改善活動をさらに強化していき、子会社3社へも展開し、目標達成に取り組んでいきます。



有害化学物質の削減

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シズンホールディングス》CSR》環境とシズン》有害化学物質の削減

有害化学物質の使用量の削減

シズングループでは、2003年度より塩素系有機溶剤や代替フロン(HCFC類)の使用量削減に取り組み、2008年に全廃しました。なお、2010年度のシズングループ全体のPRTR※3物質の届出状況は下ようになりました。法律の改正等により、届出物質数は4物質が11物質に増加しました。取り扱い量も92.5トンと2.8倍になりました。

PRTR物質の排出量・移動量 (単位:t)

化学物質名	取扱量	排出量					移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	事業所における土壌への排出	事業所における埋立処分	下水道への移動	事業所外への移動	
塩化第二鉄	33.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	
1-ブロモプロパン	16.2	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	9.2	
キシレン	11.6	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	
ニッケル化合物	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	
メチルナフタレン	9.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
6,7-ジクロロベンゼン	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	
1,2,4-トリメチルベンゼン	2.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	
トルエン	1.5	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	
無機シアン化合物 (錯塩及びジアン酸塩を除く)	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
鉛	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ベンゼン	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	92.5	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	53.4	

※3:PRTR法

有害性のある化学物質がどのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを、国、事業者などの機関が把握・集計・公表する法律(化学物質排出把握管理促進法)

環境配慮型製品の充実

環境配慮型製品の拡大への取り組み

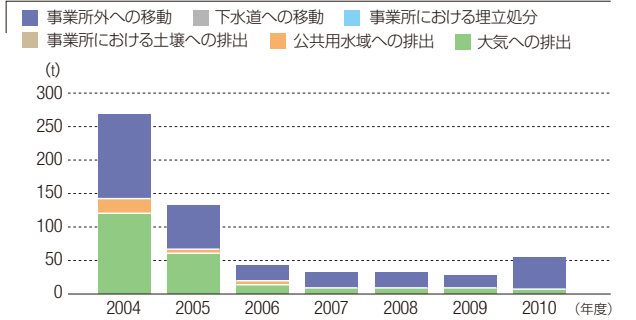
シズングループでは、「環境配慮型製品」の充実への取り組みを行っています。開発段階から多項目の環境製品アセスメント(評価)を実施し、「省資源・省エネルギー」「再資源化(リユース・リサイクル)」「長期使用性」「環境保全性(有害化学物質管理)」「環境情報の提供」「包装材」などの評価基準をすべて満たした製品を環境配慮型製品に認定しています。新規モデルに占める環境配慮型製品の割合を2008年度中に100%にすることを目標とし、本格的に取り組みを開始した2005年度以来増加し、2009年度からはほぼ100%の実績となっています。

なおREACH規則、RoHS指令への対応については、管理システムを導入し、化学物質管理を実施しています。

※4:REACH規則 化学品の登録、評価、認可に関するEUの規則。一定量以上の化学物質を扱う企業は、当該物質の特定や危険性に関する情報の登録などが義務づけられる。2007年6月1日から施行されています。
※5:RoHS指令 EUの有害物質使用制限指令(2006年7月より鉛、カドミウム、水銀、六価クロム、臭素系難燃剤(PBB、PBDE)の6種類の化学物質を含有した電気・電子機器製品の販売がEU域内で禁止される)

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シズンホールディングス》CSR》環境とシズン》環境配慮型製品の充実

PRTR物質の排出量・移動量の推移



事例紹介

化学物質管理システムの活用

欧州のREACH規則※4、RoHS指令※5をはじめ世界の有害化学物質規制が強化されてきている中、シズン・システムズでは、製品含有化学物質管理システムを活用し、製品を構成する部品の化学物質情報を一元管理し、化学物質含有量を集計するシステムを構築しています。このシステムを有効利用することにより、お客様からの環境情報提供の要請に短期間で対応することが可能となりました。



事例紹介

環境にやさしいNC自動旋盤シンコムの開発

マザーマシンと呼ばれる工作機械は、ライフサイクル評価の視点からも環境配慮の取り組み効果は非常に大きいといえます。シズンマシナリーミヤノが開発した「M32Ⅷ型」は省エネルギーや有害化学物質の不使用などの評価項目を設定し、開発しました。工作機械には多くのモータや重い可動部があり、加工に必要なエネルギーの見極めや、消費電力量の「見える化」で、無駄なエネルギーを徹底的に削減する取り組みを行いました。また有害化学物質の不使用については、約3,000点からなる構成部品を一点一点調査し、対応をとることで実現しました。



M32Ⅷ

より詳しい情報はWEBサイトをご覧ください。
シズンホールディングス》CSR》環境とシズン》資源の有効活用と廃棄物の削減

環境配慮型製品

エコ・ドライブ ウオッチ — デザインの可能性

～ 東京デザイナーズウィーク2010
“くらしと環境のデザイン展”に出展～

環境とデザインから未来を見つめるイベントに参加

「東京デザイナーズウィーク」(以下、TDW)は、NPO法人デザインアソシエーションが主催する都市型デザインイベントで、25年という歴史を誇る日本有数のイベント。都内各所を舞台に、毎年テーマに応じたさまざまな展示やイベントを展開。2010年は10月29日からの6日間、「環境×デザイン」をテーマに開催され、世界各国から72,000人に上る方々が東京を訪れ、にぎわいをみせた。

今回、シチズンがTDWへの出展を決めた理由の一つには、“くらしと環境のデザイン展”を謳うTDWのコンセプトと「光発電エコ・ドライブ」をはじめ環境配慮型製品を展開するシチズンの企業精神が合致していたことが挙げられる。またシチズンでは「技術と美の融合」を掲げ、デザインと機能性や環境配慮も実現する製品づくりに取り組んでいる。その真摯な姿勢を一般の方々により広く知って欲しいという想いが以前からあった。また社内外を問わず、より一層ブランドイメージを高めていくことも、出展に込めた目的の一つ。シチズンの環境への取り組みやデザインへの想いをお披露する意味も込めて、今回はじめてTDWに参加することとなった。

技術と美、環境とデザインの融合から未来へ

表参道にあるシチズンデザインスタジオは、TDWの中央会場である明治神宮外苑にほど近く、ショップエキシビジョンの一つとして選定された。10月28日には、一般公開に先駆けてプレオープニングパーティを開催。「エコドライブ ウオッチーデザインの可能性」をテーマに、社内5名のデザイナーによるプレゼンテーションが行われた。また、期間中には創立80周年記念のコラボレーションウォッチ6モデルも展示。

プレゼンテーションの開催にあたっては社内内でデザインコンペを実施し、幅広くデザインを募集。50数点におよぶ応募のなかから特に評価の高かった5作品を選定し、当日はデザイナー自らがそのデザインに込めた想いを語った。それにより、シチズンのデザインに対する姿勢を多くの方々に知ってもらうとともに、普段なかなか知ることのない柔軟かつ革新的なアイデアをデザイナーが生の声で伝えることにより、ブランドイメージ向上にもつながると考えたのだ。たとえば、チタンを利用した表面処理技術や、ソーラー発電技術はすでに高い評価を得ていたが、そうした技術にデザインを結びつけ、社内で連携しながらより良い製品を生み出すきっかけにもなった。

今回の出展を終えて…

今回のTDW出展を通して、一般のお客様や異業種のデザイナーの方々など、普段なかなか接する機会の少ない方々からも貴重なお声をいただくことができました。また、シチズンのデザインにかかる想いと取り組みを再認識していただく場になったことで、出展を決めた当初の狙いも達成できたと思います。シチズンは、「光発電エコ・ドライブ」など、製品を通した環境保全に取り組んでいます。突きつめて考えると、人も自然環境にほかなりません。人の肌に触れる身近な工業製品である時計をご提供する企業として、人の心に響き、訴えかける力をもつデザインを心がけるべきであると考えます。すなわち、「技術と美の融合」を実現することでこそ、その先に「環境とデザインの融合」が実現し、シチズンのめざすべき未来の製品につながっていくと考えています。こうした取り組みは一過性のもものでは意味がありません。今後も、こうした取り組みを継続的に実施していき、さらなる展開をめざしていきたいと考えています。

シチズン時計
マーケティング本部 デザインセンター
クリエイティブディレクター

坂巻 靖之

第三者意見

CSR報告書は、CSRへの取り組み状況の報告だけでなく、企業理念の実現のための取り組みに対するコミットメントの発信ともいえます。本年も、そのような視点から意見を述べたいと思います。

株式会社インテグレックス
代表取締役社長

秋山 をね氏



1 評価したい点

「市民に愛され市民に貢献する」というグループの企業理念の実現に向けて、事業活動のすべてで全員参加で取り組みを進めるという変わらない姿勢は高く評価できます。

冒頭の、今年で3回目となる世界各地のグループ従業員による「あなたにとってCSRとは？」のボードの掲示をはじめ、「社会とシチズン」や「環境とシチズン」で報告されているさまざまな取り組み事例に従業員の顔が見え、「全員参加型CSR」が実践されていることが感じられます。

CSR活動の目標と取り組み状況については、昨年の活動のなかで今後の課題として把握された4点を今年の優先課題とし、各社ごとにCSR活動目標を設定して取り組みが展開され、実績と評価、今後の取り組み・課題が報告されており、PDCAを廻しながら着実に活動が進められていることがわかります。

今年は、「特集」としてグローバルでのCSR活動を取り上げていますが、各国で、それぞれのニーズに応じた社会貢献活動を行っているとともに、「活動により、グローバルな課題に目を向け個人として社会に貢献できることを考える機会となった」とのコメントが印象的でした。

具体的な取り組みについては、お客様の声を活かしたものづくりや、対話を通じたお取引先との関係構築、働きやすい職場づくりのための各種制度の見直し等、ステークホルダーの声を聞きながら取り組みを進め、改善を図っていることがうかがえます。

環境への取り組みについては、昨年改訂されたグループ環境方針に沿った目標が設定され、2010年度実績と評価が報告されており、「小さいは、エコになる。」のスローガンのもと、着実に取り組みを進めていることがわかります。グループ会社での環境家計簿制度の導入等、「従業員一人ひとりの感性が行動を起こす上での基本」という従業員参加の取り組みにシチズンらしさを感じました。

2 今後に期待したい点

海外での取り組みについて、今年は、「特集」で取り上げられていますが、各国の社会貢献活動の報告に加え、活動推進の基盤となるグループ企業理念共有のための取り組みの報告や、企業行動憲章第8条の「海外現地への貢献」事例、従業員の6割以上を占める海外従業員の「顔」と「声」が今後さらに増えることを期待します。

また、グループ各社のリスク評価によって優先度の高いリスクとして上げられた自然災害BCPへの取り組みについて報告されていますが、東日本大震災による一部生産・販売拠点での被災からの回復において、それらの取り組みがどのように活かされたか、どういった課題があったかを、今後検証していくことが求められます。

3 未来に向けて

3・11東日本大震災を契機として、企業と社会の関わりや社会的存在としての企業のあり方が以前にもまして重要となりました。企業と人、企業と地域、企業と企業、すべてのものがお互いに働き合い、力を合わせることが重要といえ、まさに「すべてのものは互いに働き合っており、一体となったときにはじめて結果が出る」という二宮尊徳の「一圓融合」が求められていると思います。

「市民に愛され市民に貢献する」企業として、本当に持続可能な社会を築いていくために何が必要か、何ができるのか、一人ひとりが考え、力を合わせて、今後も、「企業と人」、「企業と社会」が一体となった取り組みを続けられることを期待します。